

2021 年度
情報経営イノベーション専門職大学
入学者選抜試験 一般入試 C 日程

国語

注意事項

1. 試験時間は 60 分。
2. 試験開始の合図があるまで開かないこと。
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページ落丁、乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせること。
4. 解答用紙には解答欄以外に受験番号等の記入欄があるので、監督者の指示に従ってそれぞれ正しく記入すること。
5. 解答は、問題に対応した解答用紙の解答欄にマークすること。
6. 問題冊子は持ち帰らないこと。
7. 試験終了まで退出しないこと。



次の問題に答えなさい。

問1 次の傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、のちの①～⑤の中からそれぞれ選びなさい。

A 会社のドウリヨウと旅行に行く。解答番号は、1。

- ① 彼らは若手のカンリヨウだ
- ② チリヨウに専念しよう
- ③ 荷物はジュリヨウしました
- ④ くだらかなキュウリヨウがひろがる
- ⑤ セイリヨウな空気

B 資源のコカツにていての対策。解答番号は、2。

- ① カツリヨクにあふれた青年
- ② 勝利をカツボウする
- ③ 大声でイツカツする
- ④ 説明をカツアイする
- ⑤ ホウカツ的な議論

C クウソ|な議論に終止符を打った。解答番号は、3。

- ① ソ|エンな人間関係
- ② ソ|ゼイ制度の見直し
- ③ 緊急のソ|チをとる
- ④ 被害の拡大をソ|シする
- ⑤ ソ|ゾウばかりを集めた美術展

D 獲得した賞金のタカ|に応じて順位を決める。解答番号は、4。

- ① ゴウ|カ|な食事
- ② 筋肉にかけるフ|カ|
- ③ カ|モク|な彼が発言した
- ④ カ|モツ|列車の事故
- ⑤ カ|ブン|な賛辞に恐れ入る

E 相互フ|ジヨ|の原理。解答番号は、5。

- ① 家族をフ|ヨウ|する
- ② 遠方の地へのフ|ニン|
- ③ 着々とフ|セキ|をうつ
- ④ 免許証のコウ|フ|
- ⑤ フ|ソク|の事態に対処する

二
次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

知性の人、フロイト^①にとって、宗教は幻想であり科学の進歩を妨げるものであった。「宗教というお伽話は、情緒不安のもたらした作品である」と、フロイトは指摘している。魔術的な願望空想は幼児的世界のものであり、原始人の幼稚な世界への遡行^⑦にすぎない。幻想とは願望充足の空想の産物であり、魔術的な行為は観念上のつながりを現実と取り違えたものである。

フロイトの尊敬する知人、ロマン・ロラン^②は、人間の絶対的な無限なものに対する信仰の源泉となる独特の感情を、大洋感情と名づけている。人間の中に遍在する純粹に主観的なものであり、あらゆる信仰やすべての幻想を否定したところで、大洋感情があればそれは信仰と言えと述べている。だが、フロイトはそれを拒否した。乳児期の自我が分化する以前の一次的な自我感情への憧憬であり、外界と自我との一体感を示すにすぎないと反論している。

宗教は個人の死という否定しがたい事実に対して靈魂の存続や、不死という幻想を説く。たとえ無意識のうちであれ、多くの人々がそれを信仰しているのは、未開人と同じような幻想的な思考によるものである。現実の不安や恐怖、苦痛を回避しようとする思考の全能という幼稚な段階にあり、アニミズムの世界にとどまるものであるというのがフロイトの見解である。

思考の全能とは物事や現実それ自体を実際に変化させる代りに、それらについての観念や思考を、自己の願望にかなうようにつくり出し、現実に対する自己の無力や不安を解消しようとする思考である。現実の自然法則を無視した呪術や迷信、奇蹟への信仰などは幼稚な思考に基づく万能感の産物である。

キリスト教のような一神教はそれでも、文化的な一つの進歩を示すものとフロイトは考えている。「今や神は一人の人格となったので、人間と神との関係は、子供と父親との関係の親密さと濃密さを回復することが可能となった」と述べている。時代を超えて常に宗教を支えてきた感情を追究することが必要だとして、フロイトは人間の無力感や全能への願望、攻撃的な衝動と、その結果としての罪悪感などについて考察した。人がおのれの死を可能性のあるものとして知ることができるのは、他者の死の認識であって、他人との同一性の認識に基いている。したがって、自らの死の可能性を否認するためには、他者の死への認識が曖昧になり、それを否認しなければ不可能となる。

死者に対する異常な恐れ^⑧の心理には、生前の死者に対して無意識のうちに抱いた抑圧された敵意や、死の願望の投影が働いている。死者が生ける者への恨みや憎しみに充ちた悪霊や魔神となって出現するという原始的な思考はその現れにすぎない。

人々が宗教に求めるものの多くは感情に根ざすものであり、その非合理的な基盤は理解できるものの、科学がそれを正当だと見なす根拠はまっ

たくない。幻想にすぎぬ感情要求を知識から慎重に分離するのが、科学の警告であるとフロイトは主張した。

フロイトは晩年、かなりペシムスティック(1)になっていたと言われるが、自我、つまり理性による本能衝動の制禦(せいぎよ)の可能性に望みを繫いでいた。生物学の器官の進化論的発達をモデルとして、人間を対象化して理解するための構造を構築し、科学的心理学を打ち立てようとしたフロイトにしてみれば、それは当然のことである。

③ ニイチエのカトリック批判も、無意識の衝動の存在を示唆している。その特徴は宗教者自身が自然な欲望を抑圧することで、偽りの道徳をもたらしたとする点にある。おのれに打ち克つということで、他人より優位に立つという錯覚は、性的快楽に劣らぬマゾヒスティックな知的快楽をもたらしものである。そこには聖職者の復讐の怨念が妖しく光っているとするニイチエの指摘も、また心理学的なものである。

④ ユングは霊魂不滅という宗教的な理念の中にエネルギー不滅恒存の法則を認めている。したがって、輪廻(りんね)ないし魂の流転という仏教の認識の中にも、恒存するエネルギー変転の可能性があると見ていた。

フロイトは心の領域にまで科学的な探求を拡大し追究しようとしたが、内面的なものを力説するユングは宗教を否定しない。フロイトのシュレーパー症例は豊かな幻想の中から幼児的な材料を明るみに出すことはできたが、幻想それ自体の持つ象徴の意味を、正当に評価していないとするのがユングの見解である。ユングにとって無意識は、人間の幻想と想像性を産み出すものであり、創造の泉を汲みあげる源泉である。

人間は予感を抱くことはできても、絶対者の真の实在を認識することはできない以上、人間の理解を超えた領域を、その象徴体系によって開示しようとするものとして、ユングは宗教を肯定している。合理的な意識があまりにも拡大・強化され、象徴の源泉から遠くに追いやられていて、象徴を理解することを妨げているのが今日(こんにち)の状況であると、ユングは考えている。

比較研究に基いて、原始類型としての神の像が正当性を持つかどうかを、確認するところまでが心理学の範囲である。神の存在可能性については、肯定も否定もしないのがユングの立場であった。経験科学としての心理学の力の及ぶ範囲は、当然限定されるというのがユングの見解である。

宗教は人々の心の苦悩の救済を目指すが、精神療法は心的苦悩に発する心の障害の治療を目標とする。ユングは精神療法の専門家としての立場から、宗教的な心性を含めて、従来の科学の枠を超えた包括的な深層心理学の樹立を企てたと言える。

心の安定を求めるのは人間の常である。精神療法における解釈は、たとえ、それが一つの仮説であるとしても、体験としての同意が得られ、首尾一貫した統合性がもたらされるならば、人はそれで安定に向う。

だが、それが可能となるためには、精神療法の治療者は、自らの心の内部にうごめく無意識の動きを認識しなければならぬ。ユングもフロイトと同様に、専門的な教育を必須の条件と考え、教育分析を重視している。

教育分析とは精神分析家またはユング派の分析心理学の専門家になろうと志す、精神科医または心理臨床家が、公認された教育分析者から受ける個人分析のことである。

科学的合理主義の枠を固守したフロイトは、医師としての分別を越えることを固く戒めている。救いを求めてくる患者を自分の所有物にして自分の理想を押しつけ、治療者の似姿に仕立てあげるようなことは、患者の運命をほしのままにつくり変えようとすることになる。フロイトは断固としてそれを拒否する。患者は精神分析医の模倣者となるために来たのではなく、自分自身の本性の解放と完成に向わねばならぬからである。

いかに卓越した熟練の治療者であっても、患者の潜在的な可能性以上のものを、そこから引き出すことのできないのは当然である。ユングとてその原則を超えようとしているわけではない。従来科学の枠に捉われずに自由に考え、無意識や心的エネルギーについての見解こそ異にしたが、ユングはかつてはフロイトの弟子であった。

「フロイトとユング」〔精神分析と仏教〕、武田専、新潮選書

問1 傍線部①「フロイト」と傍線部②「ロマン・ロラン」について、本文から読みとれる二者の違いを述べた文として最も適当なものを次の

中から選びなさい。解答番号は、

6。

① 科学の進歩にとって宗教は有害であるとフロイトが考えるのに対して、ロマン・ロランは宗教には時代を超えた大洋感情があるとし、それは人と神との関係が、ちょうど子と親の関係の濃密さと比例することからもいえると述べた。

② 人は死をおそれるがゆえに靈魂の不滅（不死）というおとぎ話をつくったとし、そこにこそ宗教の不安解消の思考がみられるとするフロイトに対して、ロマン・ロランは、宗教者自身の自然な欲望の抑圧をそこに見出そうとした。

③ ロマン・ロランが、信仰心のなかには人間が普遍的にもつ純粹な主観が見出しうると主張するのに対して、フロイトは文化によって信仰心にはかなりの違いがあることを指摘しつつ、科学的な比較が大切だと主張した。

④ フロイトが、宗教の信仰に、未開な人間と同じレベルの幻想的な思考、外界と自我との幼稚な一体感等を見出したのに対して、ロマン・ロランはそこに人間が内在的にもつところの絶対的・無限的なものへの独特な感情を見出した。

⑤ ロマン・ロランは、宗教のもつ象徴的な記号には、人間の創造性の源泉が宿っていると肯定的に評価するが、逆にフロイトはそれこそが現実の法則を無視した呪術や迷信であると否定的に評価した。

問2 傍線部①「フロイト」と傍線部③「ニーチェ」について、本文から読みとれる二者の共通点を述べた文として最も適当なものを次の中から

選びなさい。解答番号は、

7。

① 二人とも、宗教を批判する際に、心理学でいう「無意識」の衝動や抑圧という考え方を採用している。

② 二人の共通点は、とくに聖職者の意識の中に「偽りの道徳性」すなわち「偽善」の存在を指摘したことだ。

③ 二人はほとんど同時代に生まれたため、当時西欧で流行していた「科学的心理学」の影響をつよく受けている。

④ 二人の宗教理解が一致するのは、カトリック信仰の本質には「無意識の攻撃衝動」があると見抜いた点である。

⑤ 二人とも、宗教の幼児性を乗り越えるためには、理性によって本能衝動を制御すべきと主張している。

問3

傍線部①「フロイト」と傍線部④「ユング」について、本文から読みとれる二者の違いを述べた文として適当なものを次の中からふたつ選びなさい。(順不同) 解答番号は、

8

、

9

。

- ① ユングが心の領域にもエネルギー不滅の法則が適用されうるといふのに対して、魂の流転説は「死の願望の投影」にすぎないとフロイトはいう。
- ② フロイトは幻想という概念で宗教の幼児性を明らかにしたが、幻想自体がもつ象徴としての意味をフロイトは見落としているとユングはいう。
- ③ フロイトは心の領域といえども科学的に探求すべきだといひ、一方、ユングは心理学の究極の目的は人々の心の苦悩の救済にあると主張した。
- ④ フロイトは、感情と知識は慎重に分離すべきだと主張するが、ユングは宗教の象徴体系を知識と感情の融合だからそれはできないと述べた。
- ⑤ ユングは、神の存在については肯定も否定もしない立場にたつが、フロイトは神を認識することはできないが予感することはできると言った。
- ⑥ ユングは多神教とよばれる非ヨーロッパ系の宗教も宗教だと認めたが、フロイトが認めたのは人格神をたてた一神教のカトリックのみであった。
- ⑦ 無意識を、不合理な抑圧や衝動のうずまく世界だとみるフロイトに対し、ユングはそこから幻想や想像が生まれる、いわば創造の源とみていた。
- ⑧ 心理学は、限界をもつ「経験科学」だと考えるユングに対して、フロイトはニイチェと同じく、どこまでも発展可能な「客観科学」だと考えていた。

問4 傍線部①「フロイト」と傍線部④「ユング」について、本文から読みとれる二者の共通点を述べた文として最も適当なものを次の中から

選びなさい。解答番号は、

10。

① 精神療法における解釈というものは「仮説」としての範囲を超えることはないとしても、体験としてのお互いの同意があり、かつ治療に首尾一貫した統合性があれば、救いを求めてくる患者さんは「安定」にむかう、と理解していた点。

② 宗教は人々の心の苦悩の救済をめざすけれども、あくまでも精神療法は心的な苦悩に発する心の障害の治療を目指すものであって、そのため治療者には包括的な深層心理学の知識が必須であると考えていた点。

③ 精神療法にたずさわる治療者には、患者の治療およびその本性の解放と完成という本来の目標に集中するため、たえまなく動く自身の無意識の動きを認識するために必ず公認の分析者から専門的な個人分析をうけるべきとの考えをもっていた点。

④ 精神療法を行う際にしばしば起こる、救いを求めてくる患者を自分の所有物だと錯覚し、自分の理想を押しつけてしまう傾向を常に警戒し、どんな時も自己内対話という方法で、自分の無意識の動きを鋭く点検していた点。

⑤ 宗教というと教義や儀式の側面からの研究が主流だった時代に、普遍的な人間の心理構造として宗教をとらえつつ、従来の科学にはなかった新しくかつ自由な視点にたつて、多様な解釈および仮説を提示した点。

問5 傍線部ア「遡行」の意味として最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、

11。

① おとろえ、退化すること

② 加わり、参加すること

③ 何度も、こころみること

④ もどり、さかのぼること

⑤ 逆方向にすすむこと

問6

傍線部(イ)「ペシミステイック」とはどのようなことか。最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、

12。

- ① 楽観的
- ② 革新的
- ③ 保守的
- ④ 科学的
- ⑤ 悲観的

問7

傍線部(ウ)「今日の状況」とあるが、ユングの理解する状況の説明として最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、

13。

- ① 科学の進歩によって神を信じる人が急激に減った現代では、宗教が昔から伝承してきた「象徴」の意味を正しく理解することが困難になった。
- ② 理性による分析や判断に過剰な価値をおく現代では、論理的な説明が困難だからこそ存在する「象徴体系」の意味を解読することが難しくなった。
- ③ 神のような絶対者の存在を理解しようとしても、その真の实在を認識するための伝統的な方法が今日の世界では完全に忘れ去られてしまった。
- ④ ものごとを合理的に理解しようとする傾向が圧倒的に強い現代においては、直観による洞察はただの思いつきとして軽視されるようになった。
- ⑤ 人の抱く幻想から幼児的な要素を抽出することは支持されても、そこに創造性の源泉を見出すことは非合理であるとみなされるようになった。

三

次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

子供はなかなかの批評家だから、時々非常に穿^{つうが}つたことを言^いって大人をびっくりさせることは、どの親だってみんな多少とも経験しているでしょう。先日も拓務省の南米映画『南十字星は招く』の試写を見てきた翌日、食卓でその映画の筋をみんなに話していましたら、上の子供が口を出して、

「何だ、その映画、まるで読本^{とくほん}みたいだな。」

そして、

「でも、ちょっと行ってみたいな。南米へ行って大百姓になろうかな。でも、第二世が出来るとか面白いそうだから、よしておこう。」

映画といえば、これも先日『泣虫小僧』の試写が「大東京」であった朝、上の子供を連れて出かけましたが、終わって廊下へ出ると、原作者の林芙美子^{ふみこ}さんや監督の豊田四郎氏^{しじろ}たちに会い、一しよに中村屋へ行って昼飯を食べながらしばらく話し込みました。

豊田氏が色々批評家の批評のことを話されていたとき、言^いたまま『若い人』で、学者、批評家板垣鷹穂^{いたがきたかほ}氏から校庭の落葉が多くて不自然だという意味のお叱りを受けたということに及ぶと、うちの子供が突然口をはさんで、

「今のだって、あの落葉少しへんだよ。」

みんな「あはははははは」

私曰く、

①「ああ、ここにも学者の卵^{たまご}がいる……こら、あのおじさんがあの映画作^{つく}ったのだよ。」

「ふうん何だ、そうか。」

しかしこの映画については、子供は妙に頑強にそれ以上をきいても何の感想をも漏らそうとはしませんでした。

私は自分の子供のことをあんまり語りたくありません。既にこんなことを少しばかり書いただけでも、もう嫌気がさして今までのところをすっかり破りすてたいくらいです。人前で私事を語るのには、私のいちばん気の進まぬことだからです。私がただ言^いいたかったのは、小さな子供だって優に大人の間に伍^ごしてゆける一面^{いっぺん}を持っているということ、そしてまた子供は大人の世界にはいつて大人並みに取り扱^{あつか}ってもらいたがる傾向を持っているということです。

子供の世界というものを何か別天地のように見て、大人の世界とははっきり色分けしなければならぬもののように見る考え方には、私の見るところ、どうも何か不自然な、人工的なものがあります。それは大人の構成した架空の子供の世界、聖地回復の十字軍士の空想に描き出されたイエルサレムのような空中楼阁性が多少無きにもあらずではないでしょうか。現実の子供は決して「純真な童心」のかたまりではありません。それであるから、現実の子供の単純と複雑とをありのままに見て、それに照応する臨機応変な屈伸性ある取扱いを子供に対してなすべきではないでしょうか。

物に見境のない（と自称する）人間がこんな分別くさいお説教めいたことを言い出したことを笑わないで下さい。これは無軌道が軌道に乗ることも往々あるという一例と見ていただきたいと思えます。子供に関するヒューマニズムというものがもし唱えられてよいとするならば、それは子供をい、わ、ゆる、「A」の奴隷にしないように先ずそこから解放してやることが第一着手になるでしょう。子供の世紀と呼ばれる二十世紀は色んな子供に対する旧来の偏見や積弊から子供を解放したことは事実です。しかもまた何という沢山の児童論、児童学の氾濫によって子供が窒息させられていることでしょう。子供たちはそういう色とりどりの理論的応用の実験材料になって、何のことはない、医科大学の実験室に飼われているモルモットのような運命にもあそばされていないと、誰が言いきれないでしょうか。子供たちは色んな大人の主張のもとに作り上げられた「A」という種々雑多なあの檻かごこの檻に無理に押し籠められて窮屈な思いをしてはいないでしょうか。子供の学校の父兄会のような席に出て、私がいちばん驚くのは、その親たちが子供についてみんながみんな何か立派な学問的見識を持つておられること、そしてそれがみんなまぢまぢだということです。この多元的現象そのものが、子供の世界が決して単色モノクロームのものではないということの何よりの証拠ではないかと存じます。

子供を友人としてのみ遇することが一つの行き過ぎであることは、もちろん私とて十分承知しています。子供と大人との生理的、心理的、社会的、世代的相違というものは決して無視されることを許されないものです。つまり、親はまた保護者、監督者、教育者等々でもあるからです。けれども、それだからといって、またこれを差別待遇一点張りで押し通すこともやはり間違いだと思えます。対等と同化との上に立った交友関係を子供は案外切実に求めていながら、それを手に入れることはごく稀であるという不幸の責任者は一体誰なのでしょう。

ところでこういう交友関係が仕合せにも成立している場合、その中からおのずと生まれてくる一種の「友情」が、ある場合親子の間にさえ存立することが可能でないとは申されません。親子の愛情には多くの場合、人間特有なものというよりも、むしろ動物共通のものという方がより適切なような性質が色々含まれております。それを低い、軽蔑すべきものなどと申すのでは決してありません。だが、ローマの

賢者の言い種^{くさ}ではないが、人間的感情のうちで最も美しいものは友情ではないでしょうか。君臣の間柄におけるさまさまの道義心の発露でさえ、それによつて裏づけられているものがいちばん深い輝きを放つものであることは、歴史上の著名な例を持ち出すまでもなく、みんなのよく知っていることだと思います。

私の知っているある女性は、しかしこういう親子の間の友情は、母親と息子、父親と娘の間ではなかなか完全な、純粋な境地までは行くことができず、どこかで何かに邪魔をされるものだといつて嘆きました。例外はもちろんあるでしょうが、これはたしかに一般的に言えばそうとも言えることも知れません。私は自分の場合を少しも「完全の鏡」なんかとうぬぼれてこれを持ち出そうとしているではありません。逆に私が「親として」子供に振舞うときは、恐らく最悪の動物の親であるかも知れないのです。けれども父と息子との日々の友だちとしての対話は、私たちにとつては一日の最も純粋な愉^{たの}しい時間であることも事実です。

私はそんな場合子供から色んな学問さえも教わります。ラジオ・ビーコンの説明を聞いたのも、この辺の地層のことを教わったのも小さな子供からでした。多少とも子供から何かを学ばない親があるなら、それはよほど偉大な天才か少々ぼんやりしたばかりかのどちらかでしょう。でなければ、あるいは、何か子供に対する親の態度のうちに間違つた凝固性^⑤があるからです。よくあるように、子供を感性の動物とのみ見て、その知性を前論理的^{プレロジック}と頭からきめてかかるのは考え物だと思えます。子供に関する学問の過剰が、親が子供から学び、子供から知識をさえ吸収できるといふことを忘れさせていることはばかげたことで、ここにも無駄^⑥ありの感を深うせざるを得ません。

「父と息子の対話」(林達夫評論集)、中川久定・編、岩波文庫)

問1

点線部(A)「穿つたことを言つて」の意味として最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、

14。

- ① まるで大人のように、生意気なことを発言して
- ② 大人がめつたに考えもしない、飛躍的な発言をして
- ③ 周囲にいる人々を混乱させるようなことを言つて
- ④ 大人でも普通には使われないような洗練された言い回しで
- ⑤ ものごとの隠れてわかりにくい面をたくみに言い当てて

問2 傍線部①「ああ、ここにも学者の卵がいる」という言葉に含まれる話し手の思いとして最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番

号は、15。

- ① ものをよく観察し、自分の判断を構成しようとする知性のはたらきがみられる
- ② ひとつひとつの自分の経験をもとに、ものごとの規則性や法則性を見出そうとしている
- ③ 自分の判断に自信をもち、相手の反応を恐れず、自説を主張する強さがある
- ④ まだ幼い年齢ではあるが、将来の職業として親と同じ「学者」を選ぼうとしている
- ⑤ 幼いゆえに、世の中の礼儀をわきまえず、生意気で批評的な発言を繰り返している

問3 傍線部②「空中楼阁性」のここでの意味を述べたものとして最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、16。

- ① 基礎や土台ができていない子供のもろさ
- ② まわりの影響を受けやすい子供の不確かさ
- ③ 子供の実態にあてはまらない架空性
- ④ 将来どのような伸びる子供の可能性
- ⑤ 子供が本来持っている自我のたくましさ

問4 空欄 A には、文中にすでに登場した五文字の言葉がはいるが、最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、17。

- ① 純真な童心
- ② 大人の世界
- ③ 自分の子供
- ④ 子供の世界
- ⑤ 現実の子供

問5 傍線部③「医科大学の実験室に飼われているモルモットのような運命」とは、ここでは何をたとえたものか。最も適当なものを次の中か

ら選びなさい。解答番号は、18。

- ① 子供が、子供の本質について調べる研究者の観察対象とされているということ。
- ② 大人の思惑や先入観の枠のなかで、都合よく解釈される子供のありかた。
- ③ よりよい子供をつくるという目的のために、実験の犠牲となる子供の悲劇。
- ④ 医学という客観的科学的視点のみから評価されてしまう子供理解の貧しさ。
- ⑤ 子供の側からの異議申し立てにはいっさい耳をかたむけない大人の冷酷さ。

問6 傍線部④「動物共通のもの」のここでの意味を説明したものととして、最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、19。

- ① 動物の親が子供を守るためにもつ、死を賭してでも外敵と闘おうとする本能的な保護欲求。
- ② 動物ならば共通にもつていとみなされる種の保存、継承のための本能的な親子間の情愛。
- ③ 子育てを行う哺乳類の動物すべてに共通してみられる、遺伝子配列上の同一パターン。
- ④ 親になった動物が、自分たちのなわばり（テリトリー）を必死で守ろうとする防衛本能。
- ⑤ 遺伝情報を末永く伝えるために、親子関係よりも夫婦（婚姻）関係を優先しようとする本能。

問7

傍線部⑤「凝固性」に近い意味はどれか。最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、20。

- ① 子供から馬鹿にされたくないという親のつよがり。
- ② 世間からよい親だと思われたいという見栄。
- ③ 子供の目から自分の弱さを必死で隠そうという臆病さ。
- ④ 子供を守るの自分しかないという責任感。
- ⑤ 子供は生意気にならずに素直な人に育ってほしいという期待。
- ⑥ 親はすべてにおいて子供より上なのだという思い込み。

問8

傍線部⑥「無駄」という表現にはどういう意味合いがこめられているか。最も意味に近いものを次の中から選びなさい。解答番号は、21。

- ① 子供に関する書物をいくら読んでも、子供との正しい付き合い方はわからない
- ② 子供と同じ目線にたつて考える習慣がない大人には、書物から得る知識はただの情報にすぎない
- ③ 子供と友情を結ぼうとする親にとって、児童書をよむことはかえって逆効果である
- ④ 子供を、大人とは異なる独自のものとして評価、研究する学問にはあまり意味がない
- ⑤ 子供を良い子に育てようとする場合、子供を研究した書物をたくさん読んでも効果はない